

# 利用者の情報行動

逸村裕 (いつむら ひろし)

hits@slis.tsukuba.ac.jp

筑波大学図書館情報メディア系教授

筑波大学附属図書館研究開発室室員

日本図書館協会大学図書館部会個人委員

Does anybody really know what time it is? Robert Lamm

The Pandemic will accelerate history rather than reshape it.

パンデミックは歴史を変えるのではなく、速く進ませる

着眼大局着手小局

## 本日の話の流れ

- 1.大学の中で図書館は
- 2.COVID-19下の情報行動
- 3.学生の情報行動
- 4.研究者の情報行動 Publish or/and perish
- 5.これからの大学・情報環境・大学図書館

COVID-19蔓延により社会状況は一変した

収束の見込みは

大学そして大学図書館においてもその変化は大きいものがある

各種データから利用者の情報行動と大学図書館を考える

COVID-19によって変化したことは何か、変化しなかったことは何か

秋山肇編.ポスト・コロナ学：パンデミックと社会の変化・連続性、そして未来

/Post-COVID-19 studies : pandemic, change and continuity in society, the

future. 明石書店, 2022.

# なぜ利用者の情報行動を知る必要があるのか

ICTの普及は情報流通を変えた

一般社会

大学

なぜ機関リポジトリやラーニングコモンズはあんなに流行ったのか

Social skill

やっていることをきちんと伝える

伝わらなければ無意味

信頼をえるために

利用者の動向に敏感になりましょう

## 「プレプリント・サーバー」 「査読」がマスコミに登場

COVID-19に関しては、速報性を重視する観点から「**プレプリント・サーバー**」と呼ばれる、専門家による査読がなされる前の原稿を投稿するシステムが使われることも多い。だが、ここに掲載された内容が、他のメディアに「最新の学術的成果」として引用されれば、誤った情報が社会に広がってしまうことも起こりうる。

実際、一部で話題になった「新型コロナウイルスは人為的につくられたもの」という流言のソースの一つは、そのような**査読前**原稿であった。ちなみに、この原稿も世界中の研究者から批判を受け、すぐに撤回されている。

科学的知識には、新規性、信頼性、社会的意義といった、複数の評価尺度がある。それらは時にはトレードオフの関係になるが、コロナ禍の拡大により、各要素の緊張関係が際立ってきているとも考えられる。同様の問題は、原発事故や狂牛病など科学的な不確実性や未解明性が高い領域で、社会的影響の大きな事件が先行した場合、顕在化してきた。

私たちはいま、改めて、専門家や政治家、メディアも含め、科学的知識に向き合う際の「基本」を再確認すべきではないか。それはポストコロナ時代の「新教養」として求められるものだろう。

神里達博.新型コロナ「最新の研究成果」勇み足次々、信頼性確認を。 朝日新聞 2020年8月21日朝刊

## Publish or Perish この文章の掲載場所はどこでしょう？

研究者は自分の**研究成果を発表**することが仕事です。研究者に対する表現として“Publish or Perish”があります。20世紀前半に現れた言葉だそうです。「論文を書け、さもなくば立ち去れ」という意味です。研究をしているだけではダメでその**成果を論文として発表して初めて研究者として生きていける**ということです。論文にする前にしばしば口頭で発表することも多いです。（他の研究者から批判的なコメントをもらって必要に応じて研究を修正したり発展させたりします）。**論文や口頭発表の場**が必要になります。それが**学会**なのです。中世では研究者が成果を発表するのは本の出版という形でした。本を出版するにはそれなりのお金が必要なので、研究者は自分自身が裕福な場合は自腹で出版し、それほど裕福でない場合は貴族などのスポンサーを見つけて出版していました。ふつうの人は研究者になれなかったのです。その後多くの研究者に発表の機会を与えようということで研究者が集まって互助会として**学会を設立**したのです。会員は毎年会費を払います。学会の運営は、会員数が数千人以上の大きな学会は専従の事務員を雇ってその人たちが入会退会手続き、学会費徴収、学会誌編集などを行います。小さい学会は研究者が理事となり、自腹ですべてを行います。ボランティアです。その学問を発展させたいという強い思いがないと理事などやってられません。

研究者は好きなことだけやっている気楽な商売とされているかもしれませんが、どの商売もそうであるように研究者も大変なのです。

# Publish or Perish 将棋世界 の記事です

研究者は自分の研究成果を発表することが仕事です。研究者に対する表現として“Publish or Perish”があります。20世紀前半に現れた言葉だそうです。「論文を書け、さもなくば立ち去れ」という意味です。研究をしているだけではダメでその成果を論文として発表して初めて研究者として生きていけるということです。論文にする前にしばしば口頭で発表することも多いです。（他の研究者から批判的なコメントをもらって必要に応じて研究を修正したり発展させたりします）。論文や口頭発表の場が必要になります。それが学会なのです。中世では研究者が成果を発表するのは本の出版という形でした。本を出版するにはそれなりのお金が必要なので、研究者は自分自身が裕福な場合は自腹で出版し、それほど裕福でない場合は貴族などのスポンサーを見つけて出版していました。ふつうの人は研究者になれなかったのです。その後多くの研究者に発表の機会を与えようということで研究者が集まって互助会として学会を設立したのです。会員は毎年会費を払います。学会の運営は、会員数が数千人以上の大きな学会は専従の事務員を雇ってその人たちが入会退会手続き、学会費徴収、学会誌編集などを行います。小さい学会は研究者が理事となり、自腹ですべてを行います。ボランティアです。その学問を発展させたいという強い思いがないと理事などやってられません。

研究者は好きなことだけやっている気楽な商売とされているかもしれませんが、どの商売もそうであるように研究者も大変なのです。

松原仁. AI将棋入門. 将棋世界, 2021.8. p.74-75.



# 学会と学術雑誌

英国王立協会 (Royal Society)

1660年に任意団体 (王認) として成立

得られた科学的知識を共有することを旨とした

1665年 Philosophical Transactions of the Royal Society 刊行

フランス科学アカデミー  
(Académie des sciences)

1666年非公式に成立、1699年までに正式に王立となる

1665年 Journal des Sçavans 刊行



フランス科学アカデミーを訪れたルイ14世 (1671) Source: Wikipedia

# 1.大学の中で図書館は

(1)大学内での位置づけ

(2)大学への期待

(3)大学図書館への期待

# (1)大学内での位置づけ

この状況下、図書館の大学内での位置づけはどうか？

学術情報基盤実態調査での報告

図書館長

部長（事務長）

課長

中堅職員

他部署からどう見られているか？

図書館は信頼をかちえているか？

図書館が言うんだから仕方ない

## 2.COVID-19下の情報行動

(1)COVID-19と大学・大学図書館関係の概況

(2)各種調査結果

# リモート授業

20年前からe-Learning、OCW、MOOCs とかいろいろ言われてきたが  
2020急速な対応を迫られた

現在

オンライン教育環境はそこそこ整った  
自宅でのICT環境を整えれば

オンデマンド

自分の都合に合わせて授業を受けることができる  
許諾が出れば同曜日同時時間帯の複数の受講ができる

# オンライン授業のタイプ

## 大きく分けて2種類

### A. オンデマンド型（非同期型）

学生がオンライン上の授業のページにアクセスし、

教員がアップロードした資料テキスト、プリント、授業録画、WWW

や教科書（学習するページを指示）で個別に学ぶ

教員が提示した課題に取り組む

### B. 同時双方向型（同期型） **この講習の形式ですね**

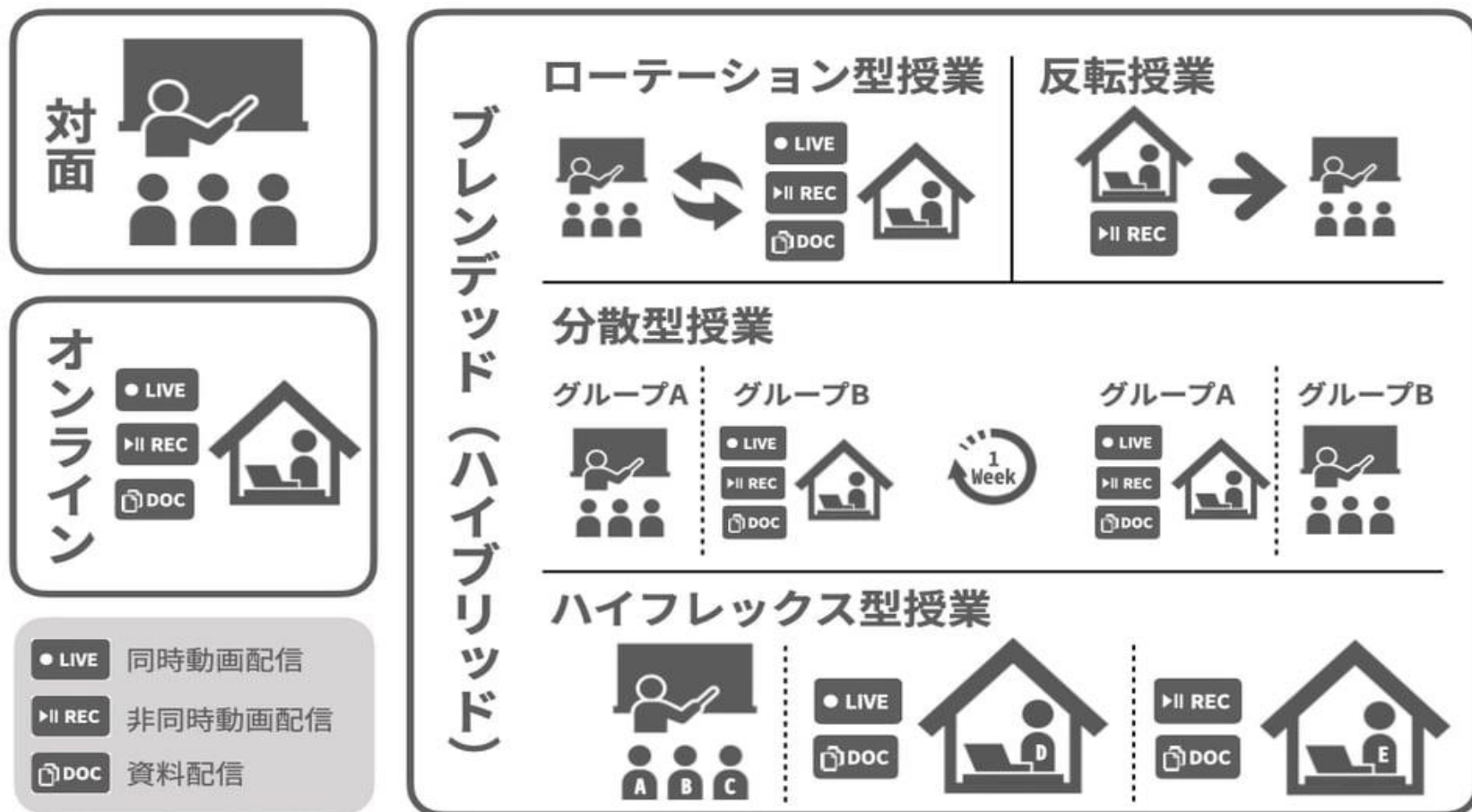
学生が定められた時刻に同時にZoomやTeamsなどにアクセスし、

リアルタイムかつ双方向で学ぶ

教員が提示した課題に取り組む

ハイフレックス (HyFlex) 型授業とは、Hybrid-Flexibleの略で、対面・同期オンライン・非同期オンラインが提供され、学生が自在に選択することができる授業形態を指します。

大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部



※各授業型の用語は、欧米や日本における一般的な定義をレビューした上で作成しています。組織や研究者によっては、異なる定義がされていることもあります。

## オンライン授業のデメリット

動画が見にくい、疲れる

録音状態が悪く講義内容が聞き取れない、聞きづらい

ネット回線のトラブル, 教材にアクセスできない, 課題レポートの提出ができない

質問する場が提供されていない

友人と共にやることが難しい

## メリット 特にオンデマンド

通学時間がない

自分の理解度にそって自分のペースで学習に取り組める

講義を自分のやり方で見返すことができる

他人とつるむ必要がなくなった



## 授業の遠隔・対面割合の変遷

	2021/5/20		2021/7/1		2022/3/22		
	数	割合	数	割合		数	割合
全面遠隔	778	92.95	254	28.35	3割以下対面	49	4.21
					5割が対面	94	8.07
併用	59	7.05	642	71.65	7割が対面	374	32.1
全面对面	27	3.23	173	19.31	ほとんど対面	646	55.45
合計	837		896			1165	

## (2)各種調査結果 NISTEP

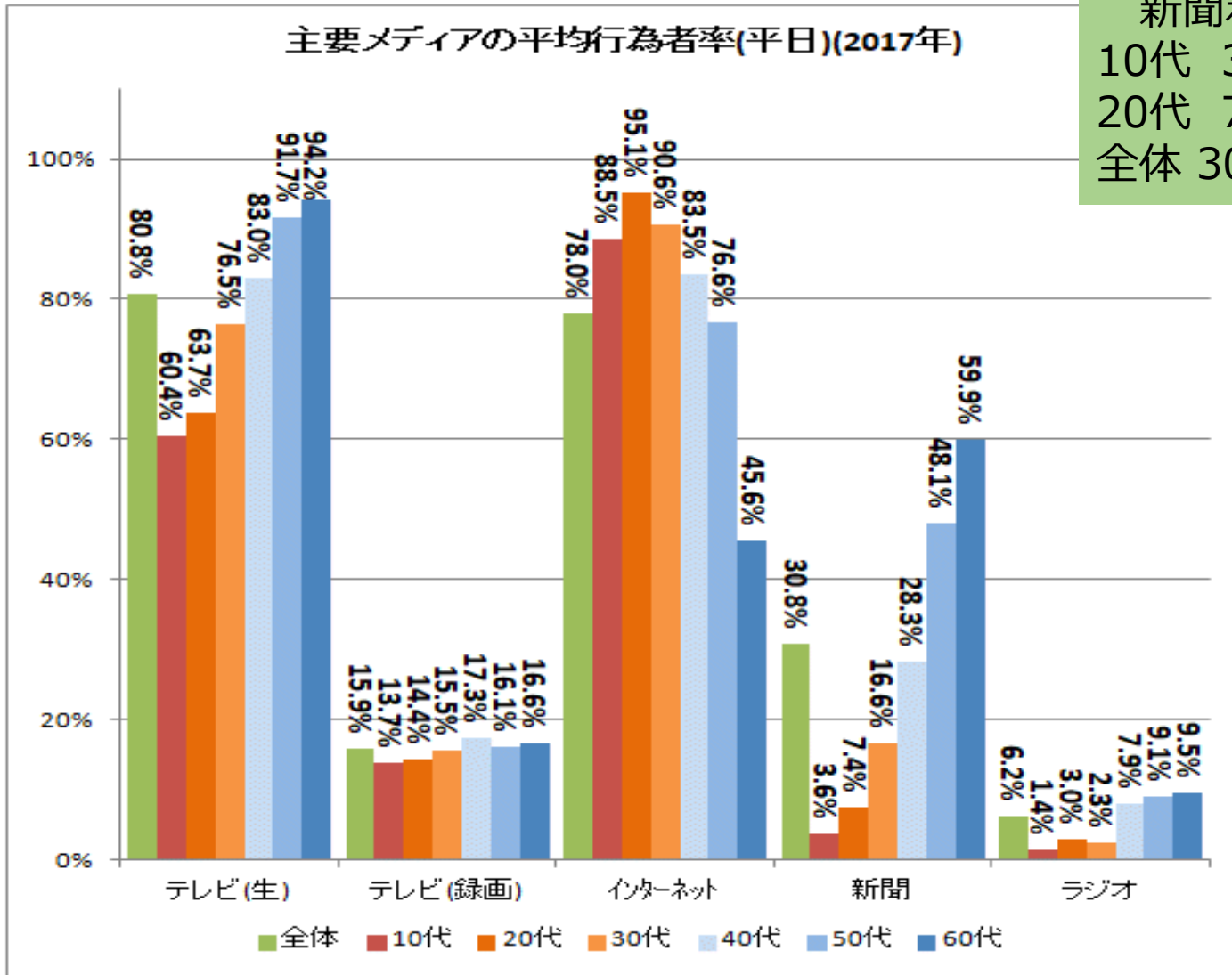
たくさんいろいろなものがある

### 文部科学省 科学技術・政策研究所（NISTEP）の調査研究報告書

- 2021.06.30 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における我が国のワクチン開発に関する課題と対策の抽出[RESEACH MATERIAL No.308]
- 2021.06.28 イノベーションの画期性と企業成長：全国イノベーション調査を用いた分析[DISCUSSION PAPER No.196]
- 2021.06.28 日本版バイ・ドール制度を適用した特許出願の網羅的調査[DISCUSSION PAPER No.195]
- 2021.06.16 民間企業の研究活動に関する調査報告2020[NISTEP REPORT No191]
- 2021.05.20 欧州レベルの科学技術・高等教育政策～現状と成立過程～[調査資料-307]
- 2021.04.28 コロナ禍を経た科学技術の未来－第11回科学技術予測調査フォローアップ－[調査資料-309]
- 2021.04.28 第11回科学技術予測調査における実現見通しの回答者所属・年代別比較分析[DISCUSSION PAPER No194]
- 2021.04.09 科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2020）データ集[NISTEP REPORT No190]
- 2021.04.09 科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2020）報告書[NISTEP REPORT No189]
- 2021.03.26 研究大学における教員の雇用状況に関する調査[調査資料-305]
- 2021.03.26 ポストドクター等の雇用・進路に関する調査（2018年度実績）[調査資料-304]
- 2021.03.25 科学技術に関する国民意識調査－新技術の社会受容性の決定要因の分析－[調査資料-306]

### 3. 学生の情報行動

新聞利用者  
 10代 3.6%  
 20代 7.4%  
 全体 30.8%



情報を得るツール 日本財団「18歳意識調査」 2020.10. (n=1,000)

情報を得るツール 複数回答	%
テレビ	52.7
Twitterなど短文SNS	43.2
Youtubeなど動画サイト	36.9
教科書参考書	34.8
本	33.6
Instagramなど写真SNS	25.1
ニュースサイト	22.9
新聞	6.8
ブログなど長文SNS	3.4
ラジオ	2.6
雑誌	1.6

# SNSの利用

日本財団「18歳意識調査」

2020.10. (n=1,000)

SNSの利用	
普段SNSを利用している	916
過去利用していた	24
利用したことがない	60
SNSの利用使用時間	
4時間以上	209
2-4時間	352
2時間未満	379
SNSの利用使途	
情報収集	804
友人とのやりとり	755
学校や仕事との連絡	755
情報発信	69
ゲーム	29

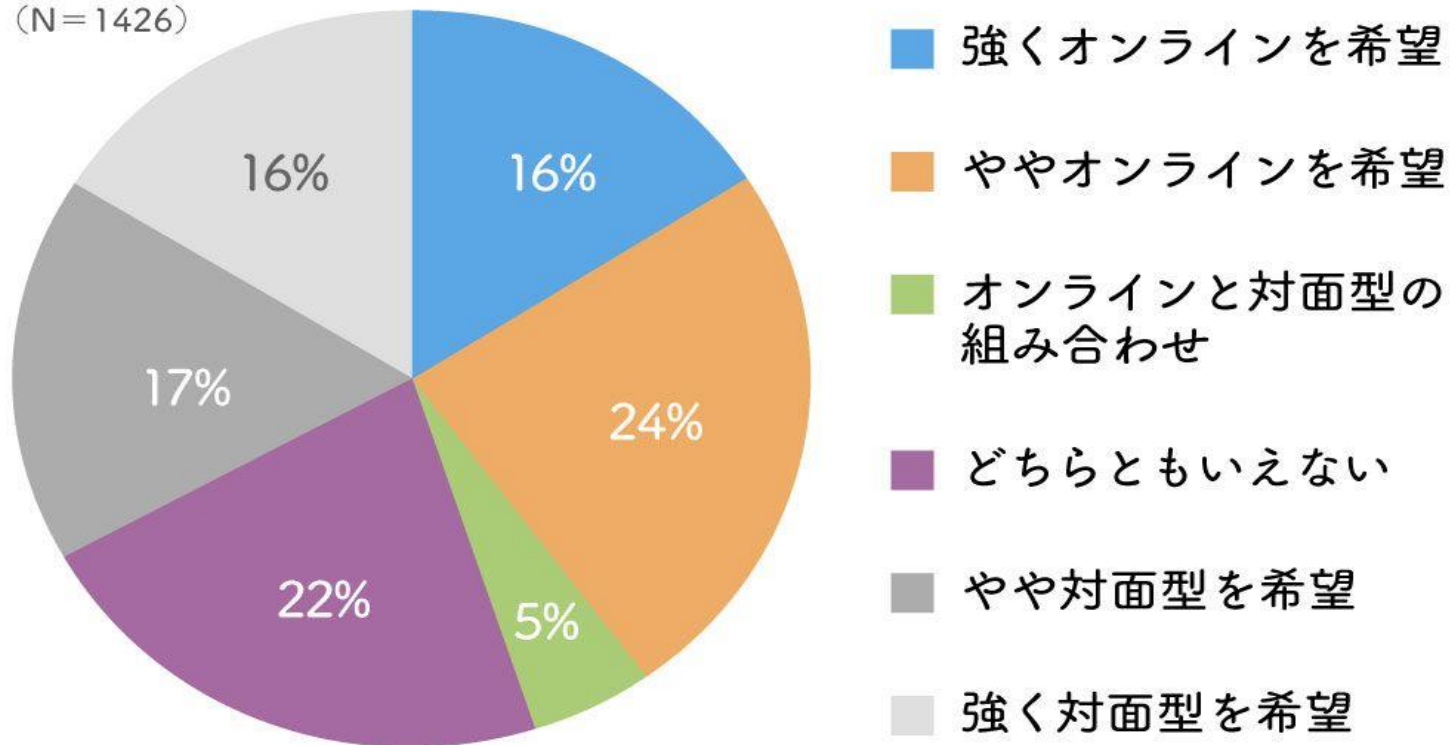
現在、中学高校ではSNSの危険性についてかなりの指導が行われている

# 2020年秋の調査

2020年4月いきなりのリモート授業、いろいろな議論が行われました

この講義をもう一度、受講経験がなくはじめから受けるとすると、  
今のようなオンライン講義と対面型講義のどちらがいいですか？

(N=1426)



出所:東洋大学現代社会総合研究所ICT教育研究プロジェクト「コロナ禍対応のオンライン講義に関する学生意識調査」を基に東洋経済作成

# 2021年3月の調査

オンライン授業について

全体的な満足度としては、不満を感じる割合より満足を感じる割合の方が多い。

あまり満足していない：14.9%

満足していない：5.7%、

理解のしにくさや、人との関わりがないことなど教育の質に関わる課題等により不満を持つ学生も多い

新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の 学生生活に関する調査（結果）

文部科学省. 2021.3. 無作為に抽出した学生約3,000名⇒有効回答者：1,744名

# ライブ・エンターテインメント市場の激減

1998年当時7,000億円あったCD等による音楽パッケージ市場の売上高は2013年には2,705億円となり、1980年以来の最低額を更新。一方で、ライブ・コンサート市場は堅実な伸びを見せている。2013年は5万回以上の公演が開催され、市場の8割を占めるポップスは右肩上がり成長している

デジタルコンテンツ白書. 2014.

2019年ライブ・エンターテインメント市場6,295億円、2020年1,306億円と前年比79.3%減

・・・音楽フェス市場は2019年度比約98%減

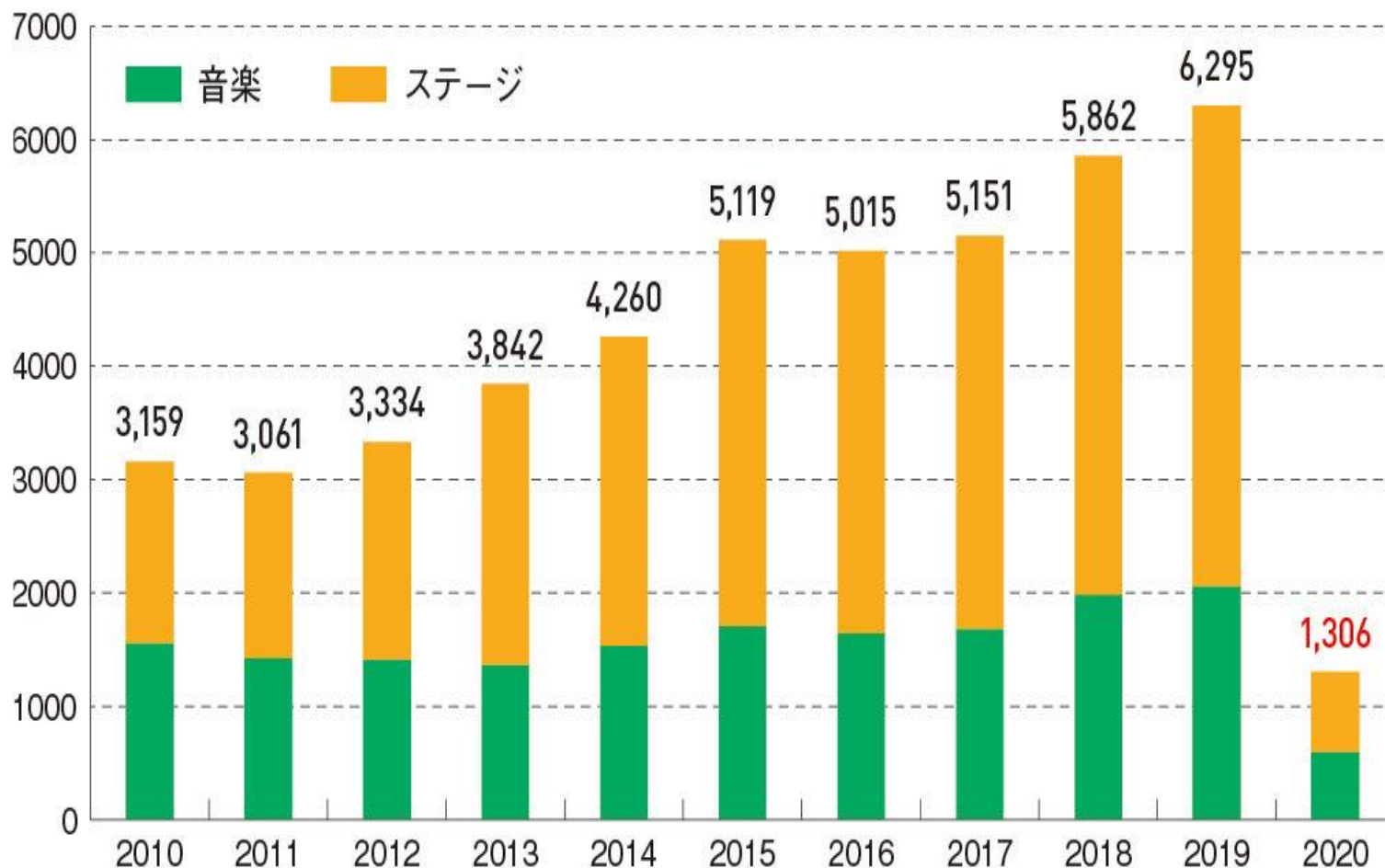
ぴあ総研、2019年のライブ・エンタメ市場が6,000億円を突破し過去最高となる速報値を公表。

2020年のコロナ禍の影響を試算

[https://corporate.pia.jp/news/detail\\_live\\_enta\\_20200630.html](https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta_20200630.html)



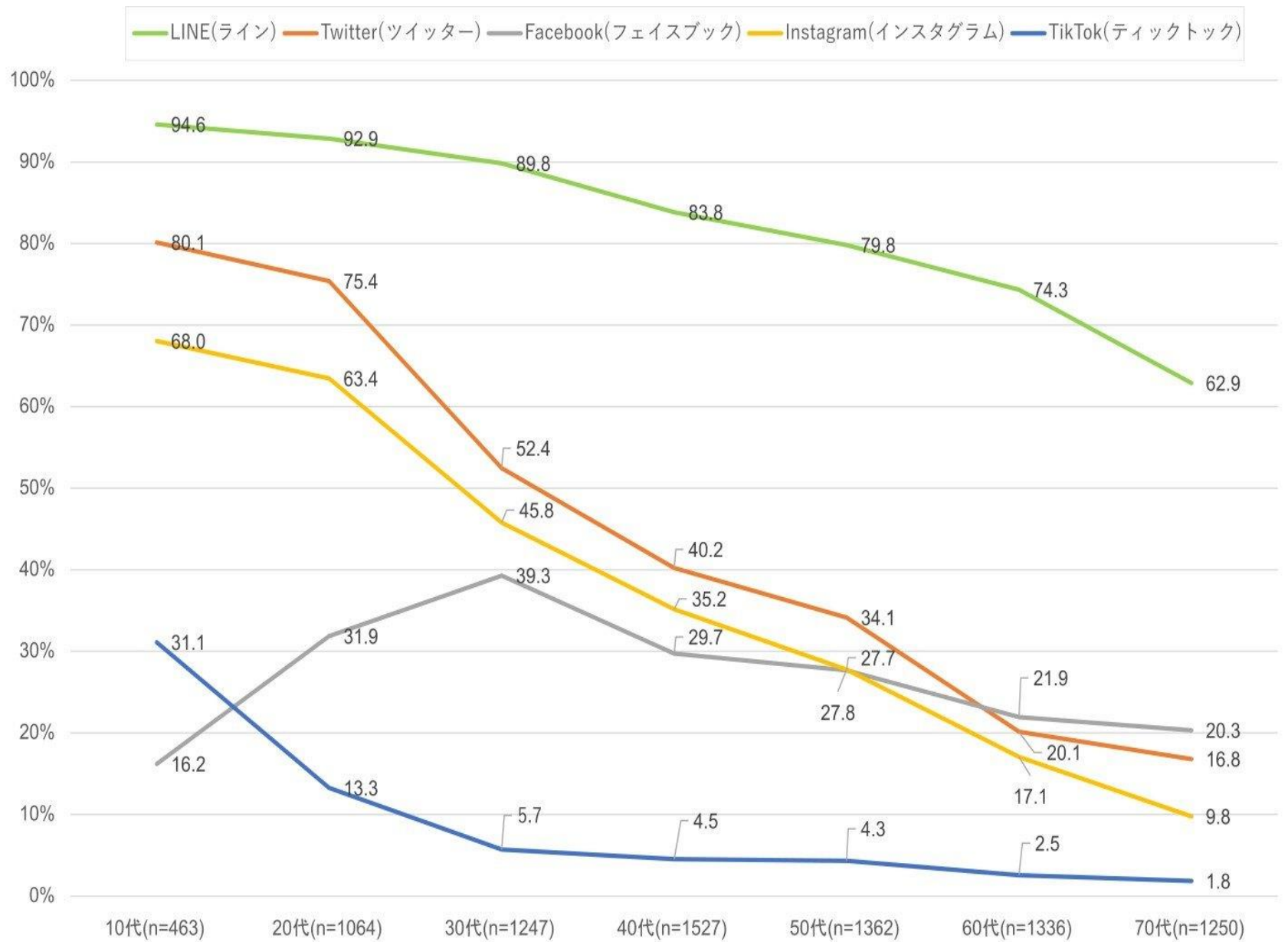
## ライブ・エンタテインメント市場規模の推移（出典：ぴあ総研）



※「ライブ・エンタテインメント市場規模=音楽コンサートとステージでの、パフォーマンスイベントのチケット推計販売額の合計」と定義。2020年は10月25日時点試算額。

## (6)学生実見

- a.呼吸するようにスマホ Googleを使用する。
- b.情報探索に関する根拠なき自信
  - しかし CiNii 知らない
- c.レポートを書くことへの不安
  - コピペ/剽窃/引用 ウィキペディア 書誌記述・・・
- d.手慣れてきたプレゼンテーション(高校で扱う 時間配分は習っていない)
- e.教科「情報」の影響
  - メディアリテラシー ネット犯罪 情報セキュリティ 情報倫理 著作権は気にする
  - Fake news (高校で扱う)
  - プログラミング (できない やったことない)
  - タイピング (遅い学生が多い PCを持っていない)
- f.アクティブラーニングの今
- g.なんでデジタル化していないんですか？



## 年代別SNS利用率（モバイル社会研究所調べ）IT media

[https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2112/03/news104.html?fbclid=IwAR1m6u9Zly8b-9z\\_akWE2MTIoj-UK8L-2cL2\\_\\_0ndDHcOj9mFyQv83dO0mA](https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2112/03/news104.html?fbclid=IwAR1m6u9Zly8b-9z_akWE2MTIoj-UK8L-2cL2__0ndDHcOj9mFyQv83dO0mA)

# Library anxiety

図書館不安

リモート環境下の学生の図書館利用は？

## 逸村ゼミの実際

2019年11月	三年ゼミ決定5名 毎週ゼミ 2月中旬以降リモートに変更
2020年3月	院生OBOG・他大生とゼミ合宿 2/15中止決定
2020年6月	卒業研究着手発表 7月にオンラインで実施
2020年9月	院生OBOG・他ゼミ・他大生とゼミ合宿 中止
2020年10月	卒業研究中間発表会 オンラインで実施
2020年12月	卒業論文提出 オンラインで提出 3名はリアルで作業 2名リモート
2021年1月	卒業研究最終発表会 オンラインで実施
2021年3月	卒業式・修了式 希望者にはリアルで実施 3名列席 2名欠席
2021年6月	卒業研究着手発表 7月にオンラインで実施
2021年10月	卒業研究中間発表会 オンラインで実施
2022年1月	卒業論文提出 オンラインで提出
2022年3月	卒業式・修了式 リアルで実施

社会人院生のうち1名「院入試と今日以外、筑波に来ていません」  
ゼミ合宿全て中止 対面でのゼミも最小限に

# 逸村ゼミ生の活動 2020

## 学類生

### 卒業研究テーマ

大学図書館における貸出履歴分析

音楽系大学図書館における視聴覚資料提供の現状

大学図書館員研修の現状と課題

大学図書館友の会及び類縁組織の調査

機関リポジトリに登録されたオープンアクセス ジャーナル収録論文の被引用数の変化

## ほとんど対面指導ができなかった

図書館使えない

対面活動を行えない

研究に制約

## 大学院生

### 博士前期

1年 社会人院生4名 すべてオンライン

### 博士後期

13名 多くが社会人院生

多くが休学

留学生（中国人と米国人）休学して帰国

大学から研究資金補助一人3万円（アマゾンでの購入 自宅送付）

特別に休学延長を認めた

研究に制約

## 4.研究者の情報行動 Publish or/and perish

皆さんお勤めの大学・研究所の教員採用・昇進条件を知っていますか？



## (1)研究者と評価

英文査読論文重視

## (2)若手研究者の情報行動は近未来を変える・・・

## (3)ITCに馴染んだ世代が学術世界の様相を変える？

Open Science

Open Access

**PID**

Article Level Metrics

Altmetrics

OA Switchboard

Decentralized science

## 大学院生が教員になるには

**若手**            大学院→学位取得  
                      ポスドク  
                      終身雇用（在職権）への道  
                            任期制(tenured)  
                            テニュアトラック

JREC-INを見ましょう <https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>

**中堅**

**シニア**

# ポストドクに関する調査

2018年度ポストドクター 15,590人（前回2015年度15,910人 2008 17,945人）

平均年齢 37.5歳

男70.2% 女29.8%

理学36.8% 工学21.3% 保健17.0 農学8.2% 人文6.9% 社会4.8%

国籍・地域別 日本69.6% 外国30.1%

雇用財源 基盤的経費等 5,208人（33.4%）競争的資金 3,299人（21.2%）

競争的資金以外の外部資金 3,086人（19.8%）

採用前職業 ポストドク 4,496(30.1%) 博士課程学生4,322(27.7%)

次年度進路状況ポストドク継続71.2% 大学教員等研究職13.0% 不明等14.2%

**ポストドクター等の雇用・進路に関する調査（2018年度実績）** [NISTEP 調査資料-304]

籍のない「在野」研究者への図書館サービスは？

小松貴. 昆虫学者はやめられない：裏山の奇人、徘徊の記. 新潮社. 2018.

# 大学教員になるには

皆さんお勤めの大学・研究所の教員評価の項目を知っていますか？

評価

Bibliometricsデータが用いられることが多い

論文数（査読付） 図書数 国際会議発表数

被引用数 Impact Factor h-index FWCI . . .

他に特許取得数 外部資金獲得数 教員・研究員歴 . . .

若手中堅の業績数は多くなっている

ORCID 便利な機能がたくさんついています

現在、研究大学の多くは若手を任期付・テニユアトラックで採用する

業績を上げるために力を尽くす

# 大学教員に採用されるには

## 採用要件 テニュアトラック助教

**研究業績**（査読付き英語査読論文・国際会議推奨）

学位

学会等での賞をとる

応募書類 例

1. 履歴書：連絡先 着任可能年月日 学歴 職歴 資格 受賞歴 社会活動（学会活動）歴など
2. 全業績リスト：査読付き学術雑誌論文 査読付き国際学術会議論文 専門学術著書

その他の論文 解説記事 その他の著書 ソフトウェア 作品 特許

外部資金取得歴 その他特筆すべき事項

3. 主要研究業績リスト：履歴書の提出月から遡り5年以内の主要業績4件（ピアレビューのある学術雑誌論文 ピアレビューのある国際学術会議論文 専門学術著書から選択）を記載のこと。

4. 3.の主要業績4件のPDFファイル

5. 全教育・実技・実務等業績リスト：教育実践実績、学外委員、研究指導など

6. 研究・教育についての抱負：各600字程度

図書館情報メディア系は2020年に25歳の助教（テニュアトラック）を採用しました

# 大学教員 若手（助教）

若手 年齢 学位取得後〇年以内

研究大学では毎年評価が行われます

助教から准教授に昇進するための要件

研究業績（査読付き英語査読論文・国際会議推奨）

教育業績

外部資金獲得

社会貢献

学会活動

学内貢献

その他の業務 学内 学外

年齢

不祥事ダメ

# 大学教員 中堅 昇任のために

**中堅** (明確な定義はありませんが) 終身在職権を持つ准教授相当とします  
研究大学では毎年評価が行われます

## 准教授から教授に昇進するための要件

研究業績 (査読付き英語査読論文・国際会議推奨)

教育業績

教え子を育てる (卒業させる 修士を取らせる 博士号を取らせる アカデミアに就職させる・・・)

社会貢献

学内貢献

外部資金獲得 (理系だと科研基盤B以上)

学会活動 (ORCIDには学会と連携した査読実績を示す機能があります)

その他の業務 学内外

年齢

不祥事ダメ

# 大学教員 シニア

**シニア教員** 明確な定義はありませんが、終身在職権を持つ教授相当とします  
【任期制教授もありますが】

教授になっても毎年評価があります

研究業績

教育業績

教え子を育てる

社会貢献

学内貢献

外部資金獲得

学会活動

その他の業務 学内外

不祥事ダメ

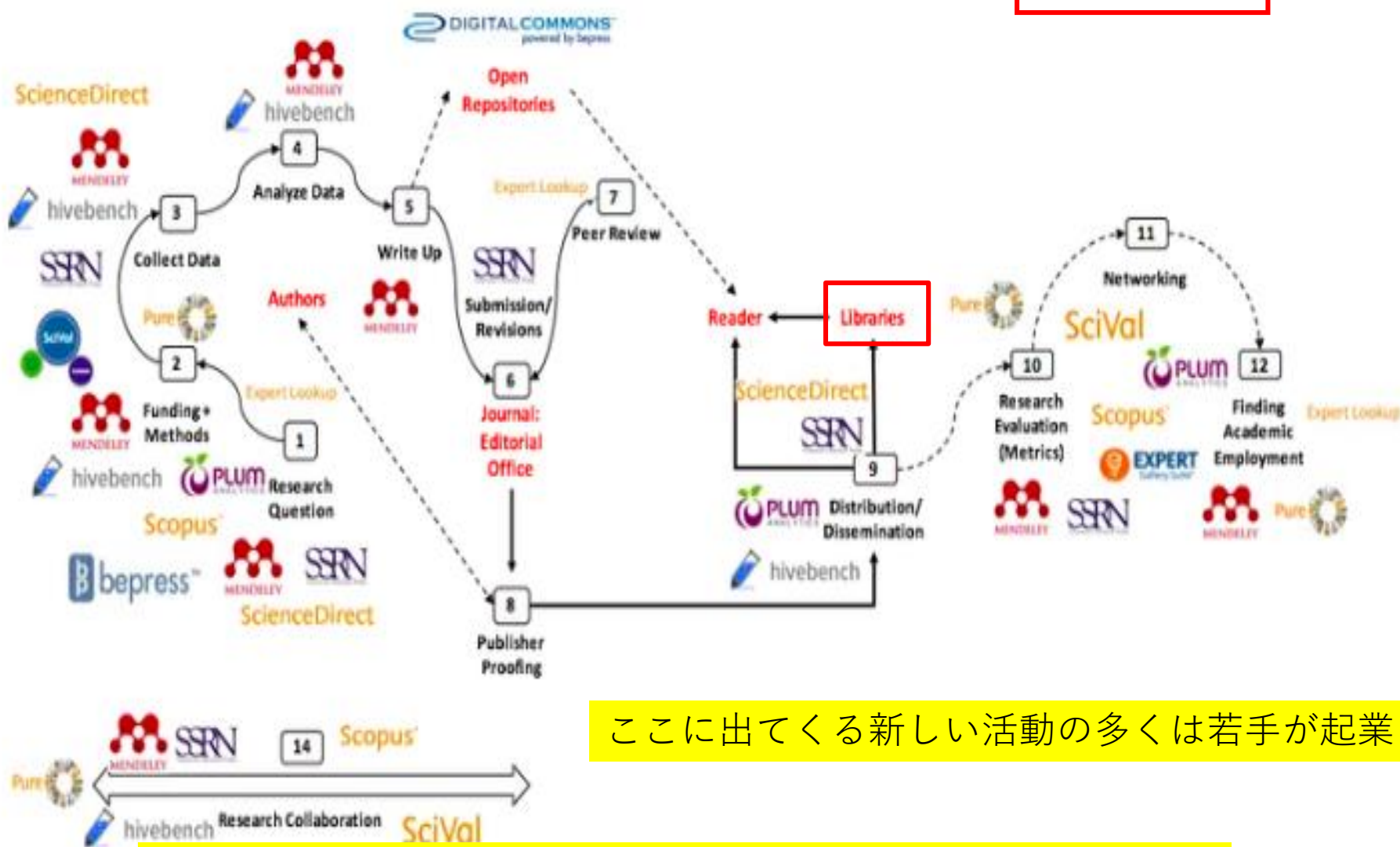


# The Academic Knowledge Production Process

## The Research Process

## The Publishing Process

## The Research Evaluation Process



ここに出てくる新しい活動の多くは若手が起業

[https://unlockingresearch-blog.lib.cam.ac.uk/?attachment\\_id=2049](https://unlockingresearch-blog.lib.cam.ac.uk/?attachment_id=2049)

# 研究大学の大学教員

若手中堅シニアに関わらず活動を続けなくてはならないのが研究大学の教員

評価との闘い

ジェリー・Z・ミュラー著, 松本裕訳. 測りすぎ：なぜパフォーマンス評価は失敗するのか？ みすず書房, 2019.

大学図書館は何ができるのか？

研究業績を上げるのに必要なものは

大学ネットワークの利用

研究機器の利用

大学図書館の利用

研究予算

非常勤講師の図書館利用をどこまで認めていますか？

大学籍を失った研究者はどうするのか？

## 若手研究者問題と大学図書館界—問題提起のために—

大学を取り巻く問題の一つに、「若手研究者問題」というものがある。およそ大学関係者であれば必ず耳にするものの一つだが、管見の限りこれを論じた図書館関係の文献はない。

若手研究者問題とは、一言で言えば若手研究者の就職問題である。1990年代後半以降、大学院生の数が増加し、博士課程を修了しても専任教員ポストに就くのが困難となっている。そして若手研究者の多くが、長期にわたり非常勤講師やアルバイト等の不安定な地位にあって教育・研究活動を続けざるを得ない状況にある。

だが、若手研究者問題がただ研究者の就職問題のみに留まるものであれば、この図書館情報誌で紹介する必要はないだろう。本稿では、若手研究者問題がなぜ生じ、その現状はいかなるものなのか、そしてこの問題がなぜ図書館界に関わるのかを論じた上で、特に大学図書館界に対して問題提起を試みたい。

本論に入る前に述べておかなければならないことがある。若手研究者問題は、自然科学系から人文・社会科学系に至る、多くの学問分野に共通して存在する問題である。

<https://current.ndl.go.jp/ca1790>

## こんな話もあります

近年、深刻化しているのが、「ポスドク」問題だ。博士号を取得した若手研究者のうち、6割が「任期付き」という不安定な有期雇用にある。さらに、安定した終身雇用のポストへの採用は狭き門であり、「雇い止め」のような形で任期を終えた若手研究者が「使い捨て」されるケースも後をたたない。

「大学が若手を使い潰して捨てるようなことを繰り返しているので、日本のアカデミア（学術研究の環境）に見切りをつけることにしました」

そう話すのは、2021年3月まで、ある地方の私立大学で任期付きの専任講師として働いていた男性（30代）だ。

将来を嘱望された若手研究者で、学生からの人気も高かったが、期待されていた終身雇用への切り替えを大学がおこなわず、事実上の「雇い止め」をされた。

男性は弁護士に依頼し、大学と交渉したものの、状況を変えることができず、この春でアカデミアを離れる決意をしたという。閉ざされた大学で、何が起きたのだろうか・・・

[https://www.bengo4.com/c\\_18/n\\_13273/](https://www.bengo4.com/c_18/n_13273/)

この私立大学、経営は（今のところ）安定しています。 **どう考えますか？**

「大学を離れて困っているのは図書館が使えないこと」

## (2)若手研究者の情報行動は近未来を変えるか

ITCに馴染んだ世代が学術世界の様相を変える？

研究・授業のリモート化

**研究者は学術情報の専門家ではない** 一方、研究に必要なもの、便利な機能を追い求める

Mendeleyの普及

Open Science

Open Access

VOR(Version of Record) プレプリント 著者最終稿 出版者版

PID DOI ORCIDは普及した 次はROR

Altmetrics

OA Switchboard

Decentralized

science[https://mirror.xyz/descifoundation.eth/HuOVg\\_6H8Zi7GafCIXL8lgRbnx4A\\_ZT5buwFQ2fYSFY](https://mirror.xyz/descifoundation.eth/HuOVg_6H8Zi7GafCIXL8lgRbnx4A_ZT5buwFQ2fYSFY)

これらの知識は研究支援には必須（になるかも）

信頼をかけるために

# OA Switchboard

オープンアクセス（OA）出版の費用は主に著者側が支払う論文掲載費（APC）によっている。OAを推進する動きの中で、APCを著者自身ではなく、研究助成機関が政策的に負担する、あるいは研究機関が集中的に管理する財源から支出するケースが増えつつある。

所属機関が購読と出版の双方の費用をカバーする転換契約を結んでいれば、APCはその中に含まれ、個々の著者の支払いは免除される。

費用をどこが負担するかという問題は、所属機関の異なる複数の共同研究者が資金的にも複数の助成金のサポートを受けるマルチ・ラテラルな出版が進む中で、ますます複雑化してきている。

OA Switchboardはこのような状況を解決するソリューションとして、学術出版におけるステークホルダーによる2018年12月の会合で提案され、オープンアクセス学術出版協会（OASPA）の監督のもとにステークホルダーによるイニシアチブとして活動をスタートした。

OA Switchboardはその名称から想起されるイメージ通り、OA出版費を請求する出版社と、支払う側である研究機関または助成機関のシステム間において、各出版単位で必要となる情報伝達を合理化するための交換ハブとして構想された。中立かつ独立した中間体として、基幹となるインフラ・規格・事務処理サービスを提供する。

資金的にはHindawi、eLife、MPDL、ゲイツ財団、Wileyなどから助成を受けている。

JPCOARが取り上げるかもと聞いています

# Decentralized science

## How Web3 Technologies Can Help Improve the Scientific Record

[https://mirror.xyz/descifoundation.eth/HuOVg\\_6H8Zi7GafCIXL8IlgRbnx4A\\_ZT5buwFQ2fYSFY](https://mirror.xyz/descifoundation.eth/HuOVg_6H8Zi7GafCIXL8IlgRbnx4A_ZT5buwFQ2fYSFY)

科学は知識と進歩の基礎である。公共財として科学は信頼性が高く、透明で、オープンにアクセスできるものでなければならない。Web3技術は現状を変えるエキサイティングな可能性を提供し、**新しい分散型科学 (DeSci) 運動**は科学を改善するためにこれらの新しい技術を利用し始めている。

技術革新は歴史的に、知識の生産、検証、保存、普及の能力の大幅な向上を可能にしてきた。15世紀活版印刷機の発明は、輸送手段の普及と共に大規模な知識の普及を可能にし、20世紀のインターネットの発明は、情報共有にかかる取引コストを劇的に削減した。

このような流れの中で、最近のイノベーションは、インターネットの非中央集権版を目指すweb3技術を用いた大規模な人間調整と価値再分配に関するものである。Web3は、**ブロックチェーン**と呼ばれる自己証明型の大規模なマルチクライアント・データベースのピアツーピア・ネットワークを基盤としている・・・

ツイッターで #DeSciを見てみましょう



# 5.これからの大学・情報環境・大学図書館

未来社会

**Society 5.0** **SDGs** **DX** **持続可能性**・・・フアディッシュな言葉たち

企画通すとか予算獲得には便利だが

思考停止を避ける

大学図書館は何をできるのか 何をなすべきなのか

教育未来創造会議

提言

# 規制改革推進に関する答申 ～デジタル社会に向けた規制改革の「実現」

デジタル時代の日本を支えるイノベーション人材育成の環境整備 **我が国の発展を支えるのは人材育成**である。教育の在り方を不断に検証し、児童・生徒・学生に最良の教育とその環境を提供していく必要がある。我が国の大学における教育・研究は、昨今の技術革新や社会情勢等の変化等に十分に対応できず、また、アジアの諸大学の台頭の影響もあり、世界トップレベルとは言えない時代が続いている。また、高校については、中学校卒業者の99%が進学する中、大学進学や就職など実社会への進路に向けた、重要な教育機関と位置付けられるにもかかわらず、学校生活への満足度や学習意欲に低下がみられるという状況にある。初等中等教育においても、諸外国と比較して、数学的・科学的リテラシーは引き続き高水準にあるものの、読解力（テキストの探索・理解・評価など）は低下してきている。AIやロボットが普通に使われる社会において、これからの子どもたちには、知識や技能を身に付けるだけでなく、それらを使いこなす能力が求められていく。新型コロナウイルス感染症の広がりをきっかけとして、教育の在り方が改めて問われている。デジタル技術の活用によって、教育の質の向上が可能になってきている中、高等教育・初等中等教育の在り方を大きく見直すべきである。デジタル技術の活用を前提として、社会変化に即応した柔軟なカリキュラム編成、多様な専門分野を持つ教師の登用、オンラインと通学を組み合わせた最適な学び方の実現などにより、児童・生徒・学生にとっての最良の教育環境を一刻も早く実現する必要がある。こういった観点から、大学・高校の**設置基準の見直し**を行うべきである。

2021年6月1日 規制改革推進会

<https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kisei/publication/toshin/210601/toshin.pdf?fbclid=IwAR3D0Szn9B9kGyqWQFm4VRGYbjzFWsVbfVrqBoySFzj8wrDDTFiHgBO9-hk>

## 追記 「図書館」（仮称）リ・デザイン提言 第0版の公開について

2022/7/12

この度、「図書館」（仮称）リ・デザイン会議では“「図書館」（仮称）リ・デザイン提言 第0版”を公開する運びとなりました。

はじめに

「図書館」（仮称）リ・デザイン会議は、「図書館」の位置づけを再定義・再定置することを目的として有志が集まり、2020年に発足しました。この会議は、図書館に関心があるみなさんに誰にでも開放されています。会議の名称を「「図書館」（仮称）」としているのは、図書館という言葉で想起される枠組み・意味の垣根を外し自由に時代にあったその未来像を語ろうという意思を表しています。

2020年から流行した新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は様々な制限を課され、図書館の利用も休止や制限を余儀なくされました。それがこの会議の発足の契機となりましたが、コロナはきっかけに過ぎません。

社会の安定と発展への希望を断ち切るような、文化の破壊、紛争、自然災害などが相次ぎ、生死のあり方とリアルに向き合わざるを得ない状況であるいまこそ「思考し行動する」にふさわしい時期であろうと考えています。

私たちは目標として「**2050年を見据えた（図書館にかかるすべての人にとっての）ビジョン**」を策定しようとしています。

<https://library-redesign.main.jp/20220712/proposal-edition0/>

# まとめ

大学図書館は何をなすべきなのか？ **信頼を得るために**

The Pandemic will accelerate history rather than reshape it.  
パンデミックは歴史を変えるのではなく、速く進ませる

今や大学は知識のソースではなく、新しいもの、人間を創出する  
リソースである、**になりつつある、急速に。**

Once you stop learning, you start dying. Einstein.

世界で図書館員は「現実」「学術情報」を知る集団であり、それを経営陣・教員・学生とコミュニケーションとって存在価値を高める必要がある。

長研はよい仕組みであると思います。ここで知り合いになった皆さんはお互いに協力し合ってやっていけばいい

**着眼大局着手小局**